

Bangladesh都市スラムにおける 衛生行動の変容促進と衛生環境の形成

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

ワークショップへの参加率 **89%**

トイレ使用後の石鹸で手洗い習慣化 **70%**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **75%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

トイレの故障等の対応において、その都度お金を集め、対応する実態があり、持続可能な衛生環境形成のために必要な将来への備えについて、コミュニティの意識を高めることが難しい。

■工夫した点

想定される事態や将来の修繕に備えるため、共益費の積立てを薦めたり、衛生環境はコミュニティにとっての共有財であるという認識形成を試みたりした。



トイレまわりの改修と深井戸設置状況

課題

都市貧困層コミュニティでは、下痢症等感染リスク軽減のために、衛生行動の変容と定着が必要であり、関連設備の改善並びにその自立的な管理が求められている。

目標

啓発活動により、下痢症リスク認知レベルの向上を図り、必要な設備を住民参加のもとで計画、設置する。さらに、自立的に衛生管理ができるコミュニティ組織を形成する。

活動内容と成果

衛生環境を形成するため、①行動変容を促すための啓発活動（ワークショップI）、②衛生行動を定着させるための設備等改善計画作成（ワークショップII）、③衛生管理を担うコミュニティ組織の形成、④設備改善、という住民参加型のプロセスを確立した。家族の健康に関心の高い女性が、①で衛生行動の必要性を認識し、②で必要な設備を考え、③のコミュニティ組織に参加することで、衛生環境形成とそれを維持するための人づくりを行った。また、飲み水を汚染から守るため、トイレで使用する水を汲む井戸と炊事や飲用の井戸の分離を図った。



ワークショップ及び水利用状況

全助成期間の活動を振り返って

コミュニティにおいて衛生環境を形成するためには、そこに暮らす人々の衛生行動が重要と考え、その変容と定着を促す活動を実践してきたが、共同トイレが以前よりもきれいになったと感じる人も多いことから、衛生行動は浸透していると考えられる。また、衛生管理に女性がイニシアティブを取るべきだという認識も大いに高まった。一方で、衛生管理において、更新期への備えなど持続可能性に関する課題が見出された。



調査及び集会の風景

〒101-0027
東京都千代田区神田平河町1 第3東ビル710号室
電話：03-5829-5843
E-mail：jade@jca.apc.org
HP：http://www.jca.apc.org/jade/



今後の展望

都市貧困層コミュニティにおける衛生環境形成のターゲット拡大と持続可能性を担保するためには、現地の関係者が協力して活動が進められること、マネジメント面において、複数のコミュニティが協力し合えるような仕組みが必要と考えられる。前者については、関係者へのこのプロジェクトの成果伝搬、後者については情報や資材の共有、地方政府等との交渉にあたるよう、コミュニティ組織からなる協同組合を作ること提案したい。